

NU-COIL LETTER

POWER OF COLLABORATION

VOL.8



feat. 山田貴将 Takamasa Yamada



Interviewer

藤掛 千絵 Chie Fujikake

今回は、南山大学国際センター講師の山田先生に、国際交流のお仕事やCOIL型授業についてお話を伺いました。(2021年12月17日)

藤掛) こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。山田先生は多文化交流ラウンジ STELLAの運営をされていますが、海外の学生との国際交流については今年どのようなオンラインイベントをされてきたのでしょうか？

山田) コロナ禍の影響をダイレクトに受け、対面でのイベントを行えなくなったSTELLAですが、NIA (Stellaで勤務する学生TA。Nanzan International Ambassador) と共に多文化交流ラウンジの「多文化」の重要性を改めて見つめ直し、ひとりひとりのユニークネスに着目したイベントを数多くオンラインで実施してきました。7月に実施した「みんな集まれステラ小屋」は、南山大学の日本人学生が、日本のことを外国人留学生に自信を持って説明できるようになるためのイベントで、参加者は、留学生が南山に来た時に役立つだろう知識を得ることが出来たと思います。

藤掛) オンラインの交流イベントは開催側も参加者側もだいぶ慣れてきて楽しんでますよね。山田先生はQ3でPBL COIL Cをご担当されましたが、どのような授業が簡単に教えてください。

山田) PBL Cは小島プレス工業(株)というトヨタ自動車に内装部品を提供しているグローバルメーカーから出されたお題(10年後のクルマの形をデザインする)について、南山大学と中国・天津師範大学の学生が協働して、議論・調査を行った結果の成果を、最終的にプレゼンテーション形式で発表し、評価していただくプロジェクトでした。

藤掛) PBL COIL Cを通して学生たちはどんな経験・学びができたのでしょうか？

山田) 言語的に自分がdominantになった時にどのように振舞えばチームで良い関係を築きながらプロジェクトを進めていけるのかを考える良いきっかけになったと思います。案外盲点なのですが、グローバルに他者と関わる際の言語は必ずしも英語とは限りません。世界には100万人以上者日本語学習者がいると言われているので、グローバルなプロジェクトで、言語は日本語というケースは、実は多いのです。PBL Cが、様々な日本語レベルのチームメートとどのように関わればいいのかを自分なりに考え、振り返り、実践していく機会を提供できていたら担当教員として嬉しく思います。

藤掛) 履修した学生たちへひとことお願いします！

山田) 短期間でしたが、皆さんは本当に大きく成長したと思います。これを機に更にグローバルに活躍して行って欲しいと思います！でも、忘れないでください。それは、必ずしも海外に行かなくても可能なことを！あなたのすぐそばにそのチャンスは転がっていることを！